

こうさかやまいせき
香坂山遺跡



香坂山遺跡と八風山



香坂山遺跡の石刃石器群

(国武貞克氏撮影)

指 定 国 史 跡 令和7年9月18日
所在地 香坂
所有者 林野庁、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構

香坂山遺跡は佐久市北東端部に位置する後期旧石器時代初頭の遺跡である。長野・群馬県境に連なる関東山地北端にそびえる八風山（標高 1,315m）の西南麓、標高 1,140m の尾根上に立地している。

本遺跡は平成9年（1997）の長野県埋蔵文化財センターによる上信越自動車道八風山トンネル換気塔建設工事に伴う発掘調査で発見され、八風山に産出するガラス質^{しつ}黒色安山岩を用いた石刃石器群が検出され、日本列島最古段階に位置付けられた。

令和2・3年（2020・2021）の独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の国武貞克氏らによる学術発掘調査により、本遺跡の石刃石器群が大型石刃・小石刃・尖頭形剥片^{せんとうけいはくへん}という3種類の石器で構成されることが判明し、石刃製作跡や調理跡と考えられる礫群^{れきぐん}など、当時の生業を物語る遺構^{いこう}が検出された。これらの遺物・遺構は、炭化物の放射性炭素年代測定^{ほうしゃせいたんそねんたいそくてい}により 36,800 年前という年代値が得られている。

大型石刃・小石刃・尖頭形剥片^{おおがたせきじん しょうせきじん せんとうけいはくへん}という3種類の石器の組合せは日本列島では類例がなく、ユーラシア大陸の後期旧石器時代初頭石器群との共通性が指摘されることから、日本列島における現生人類（ホモ・サピエンス）の由来を考えるうえで非常に重要な資料と考えられる。

令和4年から6年（2022～2024）に佐久市教育委員会が実施した範囲確認調査の結果、遺跡範囲は尾根上の東西約 80m、南北約 35m と推定され、遺跡全体の8割は保存されていると考えられる。